

令和7年度第1回 生活習慣病対策委員会

日 時：令和8年2月16日（水）19時30分～20時30分

場 所：WEB会議（Teams）

1 開会・あいさつ

足立原健康医療局長より挨拶

2 委員の紹介

出席者名簿のとおり（6名欠席）

3 会長・副会長の選任

立道委員を会長、笹生委員と福井委員を副課長とすることに決定した。

4 傍聴の可否

傍聴希望なし

5 議事

議題（1）「かながわ健康プラン21（第3次）」について

<事務局より 資料1、資料2-1、資料2-2を説明>

（立道会長）

皆様、ただいまの説明に関しまして、何かご質問あるいはご意見ございますか。
笹生委員、よろしくをお願いします。

（笹生副会長）

神奈川県20代、30代の女性のメンタルヘルスの問題が多いというのは、就業率とは何か関係がありますでしょうか。他都道府県と比べて、その分析はされているのでしょうか。

（事務局）

就業率との関連につきましては、まだ分析できておらず不明です。

(笹生副会長)

わかりました。ありがとうございます。

(立道会長)

石原委員、よろしくお願いします。

(石原委員)

初めて参加させていただくので、わからないところがあって、教えていただきたいのですが、この健康プラン21の目標設定の11番「運動やスポーツ習慣的に行っている子どもの減少」について、小学校5年生の女子を対象にした背景を教えてくださいたいと思います。

(事務局)

一週間の総運動時間のデータソースは「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」となっておりまして、この調査の元になるものが、国の「第3期スポーツ基本計画」です。その中で運動に日常的に親しむ子どもは、男子生徒が女子生徒よりも多いので、そういった意味で、運動習慣があまりない女子生徒を指標とする形になっているようです。以上です。

(石原委員)

ありがとうございました。

(立道会長)

浜野委員、お願いいたします。

(浜野委員)

私もなぜ女子なのかと思ったのですが、運動しないっていうことで選ばれたということですけど、部活のことを言っているのですしたら、教員の方がそれで疲弊しているということも色々伝えられておりますし、また、プライベートでスイミングスクール等に行かせるということであれば、経済的な問題も格差として浮かび上がってくるだろうということで、何をやらせたいのかがわからないのですが、何をやったら総運動時間が増えるのでしょうか。子どもが万歩計持って歩くとも思えないので、いかがでしょう。

(事務局)

体育の授業は時間の算定から除くという形になってはいますが、ご質問の内容に関

しては、お調べさせていただいて、後ほど回答させていただきたく思います。

(立道会長)

他にいかがでしょうか。福井委員よろしくお願ひいたします。

(福井副会長)

総論的でちょっと話が大きいのかもかもしれませんが、目標を掲げた時に、すべての項目について国が全部あげている項目だから対応することはなかなか難しいと思うので、神奈川県として、具体的にできるアクションプランを系列で書いてもらえると、非常にわかりやすいので、目標は目標で大事なのですが、結局最終的に大事なのは、その目標を達成するために、何をするかということだと思いますので、その辺のできることを並列で書いてもらえると見る方もわかりやすいと思うのですが、いかがでしょうか。

(事務局)

今回は目標値を中心に資料としてお示ししているのですが、プランの各目標の項目に対して、どんな取組みをしていくかに関しましては、プラン本文に記載をさせていただいているところがございます。

(福井副会長)

プランの本文ということでしょうか。

(事務局)

先日送付させていただいた参考資料1になります。

(立道会長)

具体的な実施計画につきましては、かながわ健康プラン2.1の中に盛り込まれているということがございます。

成松委員、よろしくお願ひします。

(成松委員)

私は、がん関係について説明を質問させていただければと思います。妊婦の方の禁煙が非常に重要だというふうに思って、それを下げるとするのは非常に有意義なことだと思います。一方で、どのようにモニタリングして、どのように喫煙率を測っていくか、その方法について、どのように検討されているか、教えていただけますか。

(事務局)

20番の妊婦の喫煙率に関しまして、データソースとしては国母子保健課調査というものがございまして、その中で、乳幼児健診の時の問診票の項目に「妊娠中に喫煙をしたことがありますか」という質問がございますので、そこから喫煙率を算出しております。

(成松委員)

では、こちらを毎年確認して、どういうふうになっているかをモニタリングされるという理解でよろしいですか。

(事務局)

その通りです。こちらの目標値以外のすべての目標値に関しまして、毎年、そのデータソースとなっている調査の結果が出る時期に合わせてモニタリングを行っております。

(立道会長)

ありがとうございます。他いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。では議題1に関しましては、ここまでとさせていただいて、議題2に移らせていただきます。議題2「食環境戦略的イニシアチブ推進事業」について、事務局からご説明をお願いいたします。

議題2 食環境戦略的イニシアチブ推進事業について

<事務局より資料3を説明>

(立道会長)

ご説明ありがとうございました。無関心層に対しての取組みとして、環境を変えていくという非常に大胆な取組みだと思えます。ただいまの説明に関しまして、ご意見を賜ればと思いますが、いかがでしょうか。

浜野委員、よろしく願いいたします。

(浜野委員)

今回の取組みは、3つ目標が設定されていましたが、1番の減塩に関してということでよろしいのですか。痩せと高齢者の問題に関しては、また別途プランがあるっていいのでしょうか。

(事務局)

食塩の過剰摂取、若年女性のやせ、高齢者の低栄養をあげておりまして、3つすべてについて改善に向けた取組みを進めていきたいと考えております。特に、赤字で囲っております食塩の過剰摂取は、最優先課題と位置づけておりまして、必ず進めていきたいというふうに考えております。その他、若年女性のやせ、高齢者の低栄養は各地域の傾向等を調査して、どこの自治体で一緒に取組んでいくのかというところも含めて、検討していきたいと考えております。

(浜野委員)

そうしますと、3つ目標を上げられるというよりは、優先課題に絞って提言していった方がわかりやすいのかなと思います。

また、糖尿病の重症化予防とか、後に出る腎臓の方の減少とか高血圧も絡んでくるので、ここに絞った方がよいかと。やせと低栄養は減塩食を提供しても何も変わらないような気がするのですが、いかがでしょうか。

(事務局)

おっしゃる通り、食塩の過剰摂取とやせや低栄養の課題解決は同じ取組みの中で、解決するとなると、なかなか難しいのかなというのは、感じております。まずは我々も食塩の過剰摂取にフォーカスして、中心的に進めていきたいと考えております。

(浜野委員)

分かりました。ありがとうございます。

(立道会長)

ありがとうございます。福井委員、よろしく願いいたします。

(福井副会長)

発想自体は実に素晴らしいと思って、実際に私たちも外来をやっていて一番困るのは、血圧200がずっと続いているのに塩分を過剰摂取している、そういう人が実は一番に困る層であって、ちょっと介入すればすごく良くなるという人が多いのは事実です。「自然に」という発想自体は、素晴らしいと思いますが、現実的に施策とするときには減塩して美味しくて安くできるかっていうと、例えば病院できちっと減塩食をやろうと思ったら、出汁を使って美味しくする工夫をするのですが、その分コストはかかってしまう。

話としては非常に素晴らしい話ですけど、現実的にどういうふうに行けるのかというのがあります。健康無関心層は、そのまま素直に美味しいものを取りに行くので、さっき例にあった豆腐ハンバーグなんかには手を出すとはそもそも思えない。その辺が理想は理想だと感じてしまう。例えば、それなりに援助をして、こういうような食品を作るとかをしないと。運動もそうですが、いっそ生活を不便にして、電車もバスも本数を減らしてしまえば、歩かざるを得なくなって自然と運動するようになるとか、そういうこともいいのですが、それが世の中の便利さと逆行することを当然やっていくことになりますよね。考え方は非常に素晴らしいと本当に思うのですが、施策に移すときになかなか苦労するかなと思うのですが、ほかに具体的な案というのはあるのでしょうか。

(事務局)

こちらの食環境戦略的イニシアチブにつきましては、国ももちろん進めているところですが、他の都道府県でも先駆的に進めている自治体がございます。もうすでに「既存商品を美味しさそのままにこっそり減塩する」という取組みを進めている自治体がございます。実際に資料に示しているお弁当ですが、ボリュームはそのままに、先ほど先生がおっしゃられたように、出汁をうまく使いながら味のメリハリをつけて、減塩弁当とは謳わず、ボリュームたっぷりの美味しい弁当という形で販売し、売り上げをかなり伸ばしたという事例がございます。

一部、こういった健康意識の低い方に向けては、こっそりと取組みということも含めて、検討していく必要があると考えております。

(立道会長)

ありがとうございます。浜野委員、よろしくお願いいたします。

(浜野委員)

私も、以前、某コンビニ大手メーカーと健康弁当とか開発してもらったりしましたが、健康的なものを販売するというは、企業の求める利益追求となかなかうまくいかなくて、短期的なキャンペーンとしてはできても、続かないといったことがあります。そういう健康志向のところでの需要はあるようなのですが、企業活動として、実際これをずっとやっていくっていうのは、今回の予算でできるのか、食品メーカーや流通が動くのかっていう、ちょっと疑問が残るのですが、期間限定の神奈川県認証のっていうぐらいだったら動くかなと思うのですが、「こっそり減塩」といったものを商品開発して多く流通させるっていうのは、この予算ではちょっと難しいのではと思いますが、いかがでしょうか。

(事務局)

おっしゃる通り、なかなか企業利益ということを考えますと、まだまだ消費者にとって、減塩がネガティブな印象が強いということで、売り上げが伸びないじゃないかという不安を抱えている企業も多いのかなと考えております。実際に地域の健康の改善に寄与したいと考えている企業は多くいらっしゃるのですが、なかなか一社では踏み出せないという事情もあるということ踏まえて、一歩踏み出せるような形で、産学官連携の、支援の枠組みを作って、みんなで一緒になって環境を変えていきたいと思いますというのが、この事業のコンセプトでもあります。そこに向けて、企業と一緒に、こういった形で売り出していくのか、そこには流通、スーパーでどういうふうに商品を並べていくのがいいのかですとか、売り上げが減らないような、逆に売り上げが増えるような取組みを考えて、進めていきたいと考えております。

(浜野委員)

取組みとしては、こういうことを常日頃願ってはいるので賛成です。ぜひ実現してほしいなと思います。ありがとうございます。

(立道会長)

ありがとうございます。それでは石原委員よろしく申し上げます。

(石原委員)

お聞きしたいのは、県域全体でいっぺんにやるという話なのか、それともモデル地区を作って、実証事業のような形でデータを集めて、結果を出してから県に広げるのか。そこら辺はどういうふうにお考えでしょうか。

(事務局)

8年度中に、地域の食の実態分析を行いまして、そこでこういった傾向の地域があるのか、まずつぶさに見ていきたいと考えております。その上で、実際にすぐ一緒に取り組める企業もあるかと思えますし、時間をかける必要がある企業もあるかと思えますので、全域でやるというよりは、できるところから、できるエリアから進めていきたいと考えております。短期間では、食環境を作っても根付かないという問題もありますので、中期、長期的に取り組みが継続できるようにと考えております。

(立道会長)

ありがとうございます。それでは、佐野委員よろしく申し上げます。

(佐野委員)

個人の行動変容を待つのではなく、健康的な食事を自然と選べるという環境整備は非常に良い試みと考えますが、今まで県が行ってきた事業と大きく違う点は、事業者に協力をいただかないとこの事業は成立しないという点です。事業者へのインセンティブ設計と支援をきちんと明文化し、立ち消えにならないような体制をぜひ構築していただきたいと考えます。予測した結果ではないからと短期で終わるようなことがあると、以降の減塩指導においても非常に影響が出てくると思われます。その辺りの成果や評価をどこに置くのか、(事業者にとって)原材料の高騰、人手不足やコスト面などの経済的な課題を理解して、持続可能な協力体制を構築し、一年、二年という短期間で評価するのではなくて、持続的な評価をしていく事業です。単なる啓発活動に終わりたくないで、ガイドラインなどの整備をお願いいたします。以上です。

(立道会長)

大変貴重なご提言ありがとうございます。事務局、いかがでしょうか。

(事務局)

佐野委員が今おっしゃられました通り、この事業は産業界の方にしっかりと関わっていただかなければ成し得ない事業になっておりますので、先ほどやはり経済的なところで、こういった事業に参画することによって、売り上げが下がってしまうということがありますと、なかなか進められないということがございますので、産業界の方からしっかりとヒアリングをした上で、こういったインセンティブが的確なのかも含めて検討してまいりたいと思います。また、減塩の課題については長期的に取り組んでいかなければ解決しない問題だと思っておりますので、長期的な評価も含めて検討したいと思います。

(立道会長)

ありがとうございます。大久保委員、よろしく申し上げます。

(大久保委員)

目標値の塩分摂取量7gとありますが、このデータは、国民健康・栄養調査からのデータと理解してよろしいでしょうか。

(事務局)

おっしゃる通りです。

(大久保委員)

茅ヶ崎市は、今年も国民健康・栄養調査に当たりましたが、対象の方が調査に対して結構無関心でなかなか協力が得られないので、基本となるデータをしっかり取れるよう、我々も含めて、行政側として、住民の方が協力できるような啓発活動も合わせてしていかないと、データそのものはいい加減なものになってしまうといけないと思いましたので、コメントさせていただきました。以上です。

(事務局)

おっしゃる通りで、回収率がこの調査の精度に関わってくるところでございます。国民健康・栄養調査全体に言えることですが、回収率が全国的に課題となっていて、本県でも被調査者の方にインセンティブをしっかりと明示することで、回収率向上に向け取り組んでおります。今年度、インセンティブの見直しによる効果を確認したところ、県域のみについてですが20%弱程度回収率が上昇したということがございました。こういった回収率向上に向けた取組みは他県でも様々な事例がありますので、こうしたことも踏まえながら取り組んでまいりたいと思っております。

(大久保委員)

我々も努力しますので一緒にやっていきましょう。ありがとうございました。

(立道会長)

他いかがでしょうか。福井委員よろしく願いいたします。

(福井副会長)

基本的な概念図のところ、自然に健康になれる環境づくりの中に、できればそういう環境と気づきという要素も少し入れてもいいのではないのでしょうか。例えば、そもそも本人が塩分を多く摂っているということに気づく、とか、そのものに塩分がどれくらい入っているかを知るとか。私がいつも提案しているのが、お年寄りになると歩かなくなって、歩行スピードが落ちると、健康寿命が短くなるというデータがあります。歩行速度と生命予後は比例するというのがあるのですが、歩行速度も落ちていることに本人が気付かないと次のアクションに行けないので、自然に健康になれるという意味をちょっと広げて、気づくということに注目するような施策も、それであればあまりお金もかからないで済むので、そういう発想もありかなと思いますが、いかがでしょうか。

(事務局)

おっしゃる通り、自主的な行動につながるような形で、県民の方々に訴えていくことも非常に大切なことだと考えております。今回、食環境整備と並行して、県民の方々が気付いて、自分で行動変容につながるような取組みにつきましても、今後、既存の普及啓発の取組みと合わせて、検討してまいりたいと思います。

(立道会長)

ありがとうございます。私からもよろしいでしょうか。
減塩と多く栄養を摂取するというのは、真逆のことになるので、なかなか両立が難しいかなということで、まずは減塩というところを中心に事業化するというところで取り組んでいただくのがいいかなと私も感想的に思った次第でございます。
では次の報告事項について事務局から説明をよろしく願いいたします。

報告事項（１）ピロリ菌感染対策事業について

（２）循環器病 CKD 重症化予防事業について

＜事務局より資料4、資料5を説明＞

(立道会長)

ただいまの事務局からの報告事項に関しまして、いかがでしょうか。
大久保委員、よろしく願いします。

(大久保委員)

最初のピロリ菌についてですが、うちの自治体も今後検討していかなければいけないのですが、検査の方法というのは決まっているのでしょうか。

(事務局)

現在、中学生対象と若年層対象、2つの事業を考えておりまして、中学生は先行して実施している横須賀市を参考に、尿検査などを想定しております。若年層対象につきましては、現在自治体で行っている事業の対象年齢を引き下げていただくといったことを想定しており、各々の自治体の取組みを後押ししたいと考えております。

(大久保委員)

ありがとうございます。中学生は尿検査で、それ以外の年齢層は尿検査や血液検査を、補助対象として検査方法を問わないということですね。

(事務局)

現在、自治体で行っている事業の後押しと考えております。

(立道会長)

ありがとうございます。笹生委員、よろしくお願いします。

(笹生副会長)

中学生と20歳以上の検診と、やり方が全然違って、中学生はやはり一次検診は尿で、二次健診は糞便ですが、成人では胃カメラをやって、ピロリ菌の検査、血液検査でやっていくってというような形、スタイルも多いのではないかと考えております。今まで神奈川県医師会で、モデル事業として中学2年生を対象にやらせていただいて、今日参加の石原先生にも藤沢市で御協力いただいていた。すると陽性率は、1%~2%ぐらいあります。その方々を中学生の時に除菌すれば、ほぼ100%胃がんにはならない。HPVもそうですけども、神奈川県のコンプトの未病というものに非常に合っているし、若い世代をがんにしないということでは、非常に意味があると思っています。循環器の重症化予防もそうですけど、やはりこの予防のところで、いろいろ関わってやっていくということが神奈川県らしくてとてもいいのではないかと考えています。以上です。

(立道会長)

ご意見ありがとうございます。それでは成松委員、よろしくお願いします。

(成松委員)

ピロリの方で、お伺いしたいのですが、今現在どれぐらいの自治体でピロリの検診ってされているのでしょうか。

(事務局)

現在17の自治体で検診を実施しております。

(成松委員)

ありがとうございます。罹患率、死亡率を下げる、特に死亡率を下げるってことが狙いだと思うのですが、長期的に効果をモニタリングするような計画や方法は何か考えられているのでしょうか。

(事務局)

国では、そういった点にまだ十分検証がされてないといった観点から、対策型に

なっていないという点もございます。先行して実施している横須賀市のデータなども含め、見ていきながら評価を行っていきたいと考えております。また、モニタリングをどのように行うのかは、これから色々な検討の場を設けて意見を伺いながら検討していこうと思っております。

(成松委員)

はい。ありがとうございました。

(立道会長)

ありがとうございます。それでは石原委員、よろしく申し上げます。

(石原委員)

藤沢市は中学生を対象にして行っていたのですが、市町村にお金が下りるといようなお話ですが、藤沢市の場合は、公立高校、公立中学は一つもなく、私立中学にお願いしている状況なので、このお金がどこに行くのかというのは、県の方ではなかなか決められないのかもしれませんが、県から県の事業としてやるのだということで、公立中学とかにも働きかけをしていただかないと、どんどん事業として細くなっていくような感じがあるので、そこはどうお考えになっているか、お教えいただければと思います。

(事務局)

藤沢市内では、私学で実施していると伺っております。中学生を対象に実施するのを学校単位または学年単位としましたのも、市町村教育委員会のハードルがかなり高いと聞いておまして、まずは興味を持っていただいた学校からと考えております。市町村教育委員会への働きかけも、市町村の健康所管課に対応をお願いするものだと考えておりますが、いい方法などがございましたらご意見をお寄せいただければと思います。また、医師会の協力が不可欠だと思っておりますので、そうした地区の公衆衛生の方などにも、これから働きかけていきたいと考えております。

(笹生副会長)

学校現場との協力は不可欠でありまして、学校現場の協力なしにはできない事業なので、津島課長も非常にご苦労されて、色々探っていただいたりしていますが、興味持たれている自治体もありますので、そういうところからまずは始めて、だんだん横展開して広げていくのがいいのかなと考えています。その辺は、医師会が頑張らなきゃいけないと考えております。

それでまた県やこの委員会の皆様もぜひ力添えいただければと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。ピロリ菌検診学会で中学生のレジストリーをやっていましたので、それでデータを積み上げていったらいいのかなっていうことと、その中学生で受検して、その後は20歳以降でやっぱりカメラもやってみないと、そこでも本当に胃がんになるのが0%に近いのか、そういうことも実証するために、引き続きしっかりやっけていかなきゃいけないと考へています。以上です。

(立道会長)

他にいかがでしょうか。福井委員、よろしくお願ひいたします。

(福井副会長)

循環器病CKD重症化予防事業について、データとしては非常に興味がある試みですが、実際のこのハイリスクで見ると、CKDって、eGFRが60以下っていうのは、一応CKDで該当するので、それを入れているのですが、実際私たちの感覚でいうと相当軽症の感覚なのですよね。これが実際に、透析に移行する人って、10年、20年かかる、それくらい長いターム分研究データになって、本当にそこが大事なところなので、こういうのって県じゃないとできないからやっけてほしいのです。ただ、それくらい長期でちゃんとデータを取る覚悟というか、なかなか循環器系は10年、20年って長い期間じゃないとデータが出せないのですが、一般の研究では、一人の研究者が20年先までって企画するとその人リタイアしちゃうようなことになって難しいので、ぜひ県にやっけてもらいたいのです。そういう長期的なデータをちゃんと取ろうという、覚悟でやっけてらっしゃるのか、その辺をお伺ひしたいです。

(事務局)

受診勧奨レベルではなくて、手前の状況で行動変容を促す、または超無関心層、いわゆる先生のところの行くようにと言われても行っけてない方々に行っけてもらう、そういった層に向けてこの事業でやっけておまして、データを取っけていく重要性ということについても認識はしているのですが、行政ですので、それを長期に、ということについて今お約束できる状況ではないですが、非常に重要な視点だというふうに、ご意見を承りました。

(福井副会長)

多分、ここは実は専門家の中でかなり意見が分かれていて、今新しい薬とかも出ていて、このeGFR60以下を基準にしているのですが、実際現場の専門家はそこから介入してもまだあんまり意味がないのではないのかという意見もある。やっぱり、現場で意見が分かれてしまっているところなので、本当にぜひデータを

出していただきたいのですが、なかなか時間のかかるところですので、ぜひ前向きに検討をお願いします。

(事務局)

協議会の先生方にご専門の方がいらっしゃいますので、ご意見を伺いながら進めていきたいと思えます。ありがとうございます。

(立道会長)

ありがとうございます。私からの情報提供でございますけども、職域の一般健康診断におきましても、クレアチニンが法定項目に入るようになってきております。そういうことで、この eGFR 値が今、先生がおっしゃられた 60 前半から 45 までどうするかという問題って、結構大きな課題かなと思っておりますので、ぜひ専門の先生方からご助言いただければと思えます。石原委員、よろしくをお願いします。

(石原委員)

糖尿病性腎症重症化予防には尿蛋白が入っているのですが、循環器の方には、尿蛋白とか、そういうのはもう入れなくなったのですか。

(事務局)

尿蛋白を入れないのかというお尋ねでよろしいでしょうか。

(石原委員)

はい。

(事務局)

この健診ハイリスク者の条件は、専門の先生方の色々なご意見を踏まえて、やはりハイリスク者が多くなりすぎますと、基礎自治体の対応が難しいところもありまして、だいぶ議論はしたのですが、この形になっているということでございます。また今後、その抽出条件については、先生方のご意見を参考に、決めていきたいと考えておりますが、とりあえず令和7年度については、この基準で対応させていただいております。

(立道会長)

ありがとうございます。他はよろしいでしょうか。

(事務局)

浜野委員からチャットでご意見をいただいております。

「ピロリ検査について、公立か私立中学のどちらかの違いで、生涯のがんリスクを低減できるかどうかの差が出るのではないかと思いました。公立の方が抵抗勢力とはびっくりです。検証の段階とはいえ、将来的には検査を受けるチャンスは公平の方がいいと思います。」といったご意見をいただいております。

(立道会長)

ありがとうございます。今のご意見について事務局いかがですか。

(事務局)

まさに、こうしたがんのリスクが、ピロリも含めてHPVや肝炎ウイルスもあるわけですが、こうした情報がきちんと皆さんに伝えられてないという課題があることは、私どもも認識としております。こういった事業を通じて、私ども、それから先生方一緒になって、こういったリスクがあるということについて伝えていきたいと考えております。ご意見ありがとうございます。

(立道会長)

ありがとうございます。笹生委員よろしくお願ひいたします。

(笹生副会長)

今の津島課長と全く同じ意見で、やはり公平に私立でも公立でも受けられるってような検診でないといけないと考えております。ただ、藤沢市の石原先生のところでやっていただいた私立の中学生で見ますと、陽性率が低そうな感じもしますが、まだN数が少なく、ちょっとまだわからないですけども、虫歯菌だとか、そういうので感染するのは5歳以下なのですが、口移しで食べさせるとか、そういうことで、多少陽性率は違うのかなというのをニュアンス的に感じております。以上です。

(立道会長)

浜野委員、よろしいでしょうか。

(浜野委員)

ありがとうございました。理解いたしました。

(立道会長)

他、ご意見あるいは、報告事項でのご質問等ございましたら、よろしくお願ひい

たします。全体に関してのご意見はいかがでしょうか。

(事務局)

事務局から一点よろしいでしょうか。議題1のところではかながわ健康プラン21(第3次)の新たなる設定する3つの目標値について皆様からご意見を頂戴しましたが、結論といたしまして、事務局からお示した案の通りでご承認をいただけるということでよろしいでしょうか。

(立道会長)

議題1の4、11、20番の目標値案について、皆様よろしいでしょうか。特に異論なければ、これで進めさせていただきたいと思えます。

(事務局)

また、先ほどご質問いただきました運動やスポーツを習慣的に行っていない子どもの減少に関しまして、調査の概要を確認いたしましたので、ご報告させていただきます。運動に関しまして、1週間、外遊びを含む体を動かしたその運動時間、スポーツの時間が、どのくらいありますかということをお問うている内容でございますので、外で元気に遊んでいること＝運動していると感じて回答する生徒さんもいらっしゃるようです。幼い頃から運動に親しむ、そして、体を動かすということで、生涯にわたって、心身に健康で生活を営むことができる基礎能力を養うというところの意味合いから、この調査の中での項目としているということで確認を致しましたので、ご報告させていただきます。ご質問いただいた委員の先生、よろしいでしょうか。

(浜野委員)

納得いたしました。

(立道会長)

ありがとうございます。それでは、これですべての議題は終了しましたので、事務局の方にお返ししてよろしいでしょうか。

6 閉会

(事務局)

立道会長、ご進行ありがとうございました。また、委員の皆様におかれましては、様々なご意見を頂戴いたしましてありがとうございます。

本日の会議結果につきましては、審議速報と会議記録を県のホームページに掲載することとしています。後日、議事録の案を事務局で作成いたしますので、ご確認をお願いいたします。

これにて、令和7年度神奈川県生活習慣病対策委員会を閉会いたします。委員の皆様におかれましては、順次ご退室いただければと思います。本日はどうもありがとうございました。